

国立大学法人島根大学経営協議会（第128回）〈議事要録〉

日 時 令和4年6月23日（木）14:00～15:57

場 所 本部棟3階 特別会議室（対面及びオンライン）

出席者 服部学長、藤田理事、肥後理事、大谷理事、藤波理事、上野理事、上定委員、大西委員、久保田委員、高塩委員、谷口委員、津田委員、秦委員、福島委員、三輪委員

欠席者 椎名理事、宮脇理事

オブザーバー 千家監事、栗原監事

議題1 島根大学ビジョン2021に係る令和3年度実績の検証及び令和4年度実行計画の策定について

○ 肥後理事から、島根大学ビジョン2021に係る令和3年度実績の検証及び令和4年度実行計画の策定について説明があった。

○ 学外委員から、特に教育・研究の自己評価が低い印象を受けたが、島根大学ビジョン2021は中期計画とも関係してくるので計画の遅れが問題にならないのかとの質問があった。肥後理事から、教育に関して、各学部が全学として取り組むべきところで系統的な動きができておらず、取り掛かりでうまく進まなかったと評価しているため、令和4年度実行計画はその部分を改善すべく積極的に体系化した計画を立てているとの説明があった。続けて大谷理事から研究に関して、高い水準を目標として掲げ取り組んでいるが未だ成果にはつながっていないとの説明があった。

○ 学外委員から、次の2点について質問があった。

① 大学が独自の計画やビジョンを策定して進捗管理していくことは重要だが、一方で国が行う評価への対応も必要でありその点をどのように実施していくのか。

② 現場で計画等に取り組む構成員のやりがいとうまく結びつける必要があるが、同じ目標に向かって進んでいくために執行部と構成員の間の意思疎通をどのように行っているのか。

肥後理事から次の通り回答があった。

① ビジョンの進捗管理の中で中期計画の進捗についても合わせて達成状況を確認していく仕組みとしている。

続けて学長から次の通り回答があった。

① 国が行う共通評価指標による評価についても意識してビジョンの目標に入れ込むことで基本的には対応できる作りとしている。

② ビジョン策定時に教育研究評議会において議論を行い、昨年秋にビジョンや中期目標計画について各学部の教授会で説明してきた。さらに今月各学部教授会で説明し、意見交換会を行った。事務職員等とも意見交換会を実施する。

同学外委員から、共通評価指標による評価についても資料に書き込んでおく関連が分かって良いのではないかと意見があった。

○ 学外委員から、次の2点について意見があった。

① 教育ビジョンに関連して、データサイエンスやAIなど新たな知識の習得が求められる一方で、広い視野を持って物事を主体的に考える人材を育成するための軸となる哲学や倫理といったリベラルアーツへのニーズも高まっていると感じている。全学共通教育や社会人のリカレント教育においてデータサイエンスやAIといったリテラシーとリベラルアーツを組み合わせることで社会のニーズに合致した島根大学ならではの学びにつなげることができるのではないかと。

② 地域・社会連携ビジョンの県内就職者の増加に関連して、地元企業に関心を持ってもらうきっかけとしてそこで働く人との接点があることが大きいと思われるため、学生にとって身近な存在であるOBや同世代の社会人の話を聞く場を設けることが有効ではないかと。

肥後理事から次の通り発言があった。

① 学部生は幅広く学ばせていくとの方針に基づき全学共通教育の改革に取り組んでいるところであり、いただいたご意見を活かしながら進めていきたい。

② 地元就職した先輩や若手社員と交流する計画を立てていく予定としている。

- 学外委員から、総括表の令和3年度実行計画の結果が「○」と「×」で示されているが、少なくとも評点が明らかに高いまたは低い取り組みについて、評価の理由が明示されれば客観的にも分かりやすく、構成員にとっても、今後計画を進めるうえでモチベーションとしたり反省点とするなど活用できるのではないかとの意見があった。肥後理事及び学長から、メリハリのある分かりやすい資料を作成したいとの発言があった。
- 学外委員から、どの計画が進んでいてどの計画に遅れや問題があるのか一つ一つの項目を見ることも大切だが、大きく捉えて遅れている分野を見える化できる方法があれば良いと考える。一つは定量化をできるだけ進めること、もう一つは領域ごとの進捗を大きく見える化することでどこに力を入れるべきかが分かりやすくなるのではないかとの意見があった。肥後理事から、いただいたご意見を踏まえ、どこが進んでいてどこに遅れがあるのか一目で見分けるように来年度の資料を整えたいとの発言があった。
- 学外委員から、研究ビジョンの研究成果の社会への還元に関連して、松江市が行っている起業エコシステムと大学のオープンイノベーション推進本部とで連携し、今後、起業の可能性のある研究成果のスタートアップにつながるような流れになるのかとの質問があった。大谷理事から、令和3年度は起業に向けての仕掛けづくりをしたところであり、今年度以降成果を出せるよう取り組んでいきたいとの説明があった。続けて学長から、令和4年度実行計画③にあるように、広島大学を中心に中国四国地方の大学等が連携して採択されたスタートアップエコシステム事業に本学も共同機関として参画しており、そこで実績を積みながら本学単独でも成果を上げられるようにしていきたいとの説明があった。
- 以上の質疑応答の後、原案通り議決された。

議題2 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の申請について

- 肥後理事から、第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の申請について説明があった。
- 学外委員から、意欲的な評価指標に選定されると計画達成までの途中経過の努力も評価してもらえするため多く申請することも考えられるが、今回島根大学が申請しようとしている数は総合大学として適切と考えるのかとの質問があった。学長から、文部科学省とも相談したがそう多くは想定されておらず、他大学と比較したときに相対評価に耐えられるものを厳選したとの回答があった。
- 以上の質疑応答の後、原案通り議決された。

議題3 令和3年度計画に係る実績に関する総合的な検証について

- 肥後理事から、令和3年度計画に係る実績に関する総合的な検証について説明があり、審議の結果、原案通り議決された。

議題4 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について

- 肥後理事から、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、原案通り議決された。

議題5 大学機関別認証評価 自己評価書について

- 肥後理事から、大学機関別認証評価 自己評価書について説明があった。
- 学外委員から、基準を満たしていないと判断されている博士後期課程の入学定員に対する実入学者数の割合について、基準を満たすのは数の上でハードルが高い印象があるが、例えば働きながら学位の取得を目指す社会人学生を増やすという工夫はあり得るのかとの質問があった。肥後理事から、オンライン授業という方法もあることから社会人学生の獲得も有効な取り組みと考えるとの発言があった。続けて学長から、社会人学生、留学生、内部進学者すべての部分で少しずつでも入学者を増やさなければならない。社会人学生については地元企業にも博士号の取得希望はあると聞いているが実際の学生獲得には至っていないとの説明があった。
- 以上の質疑応答の後、原案通り議決された。

議題6 定員増申請の結果及び材料エネルギー学部（仮称）の設置申請について

- 学長から、定員増申請の結果及び材料エネルギー学部（仮称）の設置申請について説明があった。
- 学外委員から、学部を新設しても特别的な財政的支援はないとの報道もあるので、学内資源の配分を含め学長がリーダーシップを取らないと難しい場面も多くなること、採択された3大学の中で島根大学だけが学部を新設することから一番注目されることになるとの発言があった。学長から、定員増の採択を受けて直ちに予算が付くわけではないが、概算要求で新学部設置関連の支援を要求しながら、学内資源の再配分を行って新学部設置に向けしっかりと取り組んでいきたいとの発言があった。
- 学外委員から、法文学部の定員が10名減らされることによって法文学部の志願者数や志願倍率との関連で問題となる影響はないのか、また、在学生に対して減員についての説明などのフォローは必要ないのかとの質問があった。学長から、総合理工学部の定員をそのまま新学部に移し替えるのではなく、法文学部の定員減を含めた改組を行うことで組織改革の意義を深めていること、法文学部の志願者確保及び在学生に対してはフォローを行っていくことについて説明があった。
- 学外委員から、40名の定員純増に伴い教員の配置は必要となることから、文部科学省に働きかけを行い大学の戦力強化につなげてほしい、また、学年進行で大学院の定員増にもつなげてほしいとの意見があった。学長から、教員の配置を盛り込んだ来年度の概算要求を準備しており、大学院についても検討しているとの発言があった。
- 以上の質疑応答の後、原案通り議決された。

報告事項1 第3期中期目標期間に係る中期目標の達成状況報告書について

- 肥後理事から第3期中期目標期間に係る中期目標の達成状況報告書について報告があった。
- 学外委員から、「定量的な指標を含む中期計画の達成状況一覧」について、コロナ禍による影響を受けた部分を除けば総じて良い評価であるように見えるがそのように理解して良いかとの質問があった。肥後理事から、実施している側としては比較的達成できているものと考えているとの回答があった。続けて同学外委員から、評価できる部分はどんどん伸ばしてほしいとの発言があった。

報告事項2 令和4年3月卒業・修了者の進路状況について（令和4年5月1日現在）

- 肥後理事から令和4年3月卒業・修了者の進路状況について（令和4年5月1日現在）報告があった。
- 学外委員から、コロナ禍でオンラインによる就職活動となったことで学生に大きな影響はなかったのかとの質問があった。肥後理事から、対面の面接や企業訪問ができない状況の中で、例年よりもキャリア担当部署と密にコミュニケーションを取りながら就職活動を進めた学生が多かったとの回答があった。また、県外出身者のうち県内に就職した学生については、その理由がポジティブなものであったのかなど個別にフォローを行いたいとの発言があった。

その他

- 藤波理事から、6月6日開催の経営協議会で議決された令和3事業年度の財務諸表について、6月22日付で文部科学大臣より承認されたことについて報告があった。
- 学長から、6月6日開催の経営協議会の報告事項「内部統制システム（役員モニタリング）に係る令和3年度の実施状況と令和4年度のテーマについて」に関して、学外委員より、この度の医学部におけるご献体に関する不適切な対応事案を踏まえ、令和4年度のモニタリングテーマの一つである医療安全管理体制において病院全体の業務プロセスや管理体制に不備・課題がないか点検してはどうかとの提案があったことについて、検討結果を報告するとの発言があった。続いて藤田理事から、本件は役員モニタリングには組み込まず、外部調査委員会からの最終報告に盛り込まれる再発防止に関する要請・指示を受けて再発防止に取り組み、その実施状況については定期的に学長に報告することとするとの報告があった。続けて学長から、最終報告に基づく記者会見を行うので経営協議会委員の皆様にはまたご報告するとの発言があった。